

令和6・7年度 熊本県教育委員会指定 「熊本の学び」プロジェクト校

荒尾市立荒尾第一小学校 中間発表会

研究主題

子どもが学びの主体となる授業づくり ～一小版あらおベーシックの取組を通して～

「子どもが学びの主体となる授業」を目指して

「熊本の学び」では、「問いを発し、課題に主体的に立ち向かい、学びを深める子ども」を実現する授業づくりを目指しています。そのために大切になるポイントとして「視点の転換」が挙げられています。私たちは、まず子どもの学びに視点を転換し、取り組もうと考えました。そして、授業を「子どもたちの学びの側」から構想し、子どもたち一人一人の「学び」を十分に理解することから始めようと考え、研究主題を「子どもが学びの主体となる授業づくり」と設定しました。



では、「子どもが学びの主体となる授業」とは、どのような授業でしょうか？私たちは、熊本の学び推進プランに示されている『熊本の学び』における授業づくりのポイント」を基に考えた次の3点を中心に、毎日行っている授業を「子どもたちの学びの側」から問い直すことにしました。

- 子どもが課題に興味関心をもてるか。
- 子どもが見通しをもって、粘り強く取り組めるか。
- 子どもが今日の学びを次につなげられるか。



子ども視点



そして、本校がこれまで積み重ねてきた校内研究、荒尾市が取り組んでいる「あらおベーシック」を活かしながら、子どもまんなか授業に取り組めます。子どもまんなか授業とは、子どもを学びの中心に据え、「子どもと進める」「子どもが伝え合う」「子どもが深め合う」授業です。

全員参加型学習「あらおベーシック」

荒尾市では、予測不能な社会を自らの力で切り拓き、他者と協働して納得解を創り上げる力を身に付けた「自立する子ども」を育むために、平成30年度から「あらおベーシック」に取り組んでいます。「あらおベーシック」は、学習リーダーと教師が授業を進め、学び合いを通して課題を解決していく全員参加型の主体的な学習スタイルです。

子どもと進める

子どもが伝え合う

子どもが深め合う



研究の実際・具体的な取組

視点1

授業づくり

- (1) 単元デザインの工夫
- (2) 学習過程での手立て

学校教育目標

地域に学び 未来を切り拓く 子どもの育成

視点2

基盤づくり

- (1) 学級力の向上
- (2) 学習規律の徹底
- (3) 読書・家庭学習の推進

視点3

連携づくり

- (1) 地域人材・資源の活用
- (2) カリキュラムへの位置づけ

視点1：授業づくり

単元デザインの工夫

学習過程での手立て

「あらおベーシック」を本校の実態に合わせて改良し実践しているものを「一小版あらおベーシック」と名付けました。それを支える土台として、次の6点を校内共通実践事項として掲げました。その中に「単元デザインの工夫」「学習過程での手立て」も含まれます。

① 単元の流れを共有

単元のゴールの姿や単元を通した学習課題、学習計画を掲示し、共有。

8	7	6	5	4	3	2	1	ゴール
ずかんをどう使うかを考える。	ずかんをいかに使うか。	ずかんをいかに使うか。	クレヨン画にどうして筆をのめるか。	トピックごとに筆をのめる。	イラストをどう描くか。	その文、その文の文をどう書くか。	この文、この文の文をどう書くか。	「入」の筆をどう書くか。

② めあてとまとめの整合性を確認

めあて設定時にまとめの書き出しも設定。



③ 本時の流れ(シラバス)を共有

本時の学習の流れや時間を提示し、共有。

本時の学習	
前時のふり返り	
問題 めあて	
見通し	
一人学び5分	
全体学び10分	
まとめ	
練習	
ふり返り	

本時の学習	
ぜんじのふりかえり	
もんだい・めあて	
みとおし	
ひとりまなび3分	
ペアがくしゅう	
はながくしゅう5分	
まなびあい15分	
まとめ	
れんしゅう5分	
ふりかえり3分	

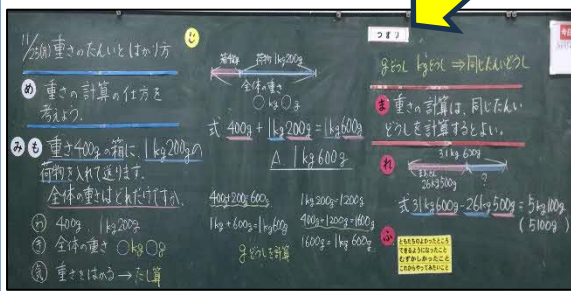
④ 言語わざの活用

授業中使用したい言葉を整理し、提示。

対話言語わざ(学び合いげんごわざ)						
		1年	2年	3年	5年	6年
くわしくたずねる	・もう少し…についてくわしく話してください。	◎	○	○	○	○
比べる	・わたしは…と思うけど、どうですか？	◎	○	○	○	○
理由	・どんなことからその理由を考えたのですか？	◎	○	○	○	○
わからないことをたずねる	・いつ、どこで、だれと、どのように、どうしたのですか？		◎	○	○	○
解釈	・つまり…ということですか？			◎	○	○
まとめる	・まとめてみると…ということですか？				◎	○
確認	・それは…ということですか？					◎
例	・たとえば、どんなことがありますか？					◎
まいたかったことをたずねる	・言いたかったことは…ということですか？					
経験	・わたしのときは…でしたが、そうでしたか？					
立場	・～の立場で考えたらどうですか？					
場合	・～の場合はどうですか？					

⑤ 「つまり」を用いて簡単まとめ

まとめに移る前に、「つまり」を用いて分かったことを確認し、共有。



⑥ ノートづくりのポイントを提示

ノートの書き方の基本を統一し、提示。

算数ノートづくりのポイント(1・2・3年生用)		7	6	5	4	3	2	1
番号	チェックこうもく							
1	青えんびつで「めあて」は書いている。							
2	「もんだい」は書いている。							
3	分かっていないことに青線はひいている。							
4	聞いていることに赤線はひいている。							
5	「自」の一人学びの式と答えは、書いている。							
6	青えんびつで「まとめ」は書いている。							
7	れんしゅうもんだいをといている。							
8	「ふ」の青えんびつで「ふりかえり」は書いている。							
	友達の良い例を見て、書きわたり、書き直したりしているといいね。							

視点2：基盤づくり

学級力の向上

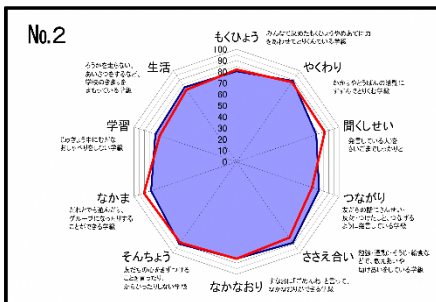
- ・定期的に①～④を実施
 - ①学級力アンケート実施
 - ②レーダーチャート(結果共有)
 - ③課題発見→解決策の立案
 - ④課題解決のための取組実施

学習規律の徹底

- ・全学年共通の学習規律
 - ①発表の仕方
 - ②ノートの書き方
 - ③学習中の机上の整理
- ・定期的な振り返り(自己評価)

読書・家庭学習の推進

- ・読書の推進
 - 目標冊数、必読書等の設定
 - 学習と関連付けた読書の推進等
- ・家庭学習の推進、定着
 - ノートコンクールの実施等



基本	
低学年	<ul style="list-style-type: none"> ・教室の真ん中に体を向けて発表する。 ・発表者を向いて聞く。(へそとへそを結ぶように聞く) ・反応しながら聞く。
中学年	<ul style="list-style-type: none"> ・全体が見える場所に立って発表する。(8か所) ・発表者の方を向いて聞く。 ・反応しながら聞く。 ・発表に対して、前置き発言(賛成・反対等)をして意見を述べる。
高学年	<ul style="list-style-type: none"> ・全体が見える場所に立って発表する。(8か所) ・聞き手の反応を確認しながら話す。「ここまではいいですか。」 ・発表者の方を向いて、反応しながら聞く。 ・発表に対して、前置き発言(賛成・反対等)をして意見を述べる。



視点3：連携づくり

地域人材・資源の活用

カリキュラムへの位置づけ

本校区には、協力的な地域人材、豊富な地域資源があります。それらをカリキュラムの中に位置づけ、次のような子どもの姿を目指し、活用しています。

○地域への理解を深め、地域に親しむ姿

○身近な地域への疑問をもち、意欲的に調べ、これまでの学習を生かして表現する姿

4・5年生 里海サミット



校区にあるラムサール条約登録地「荒尾干潟」について、テーマを決めて探究学習に取り組んでいます。「マジック釣り」「海浜清掃」等の社会体験に地域の方々と取り組み、地域の宝を受け継いでいく子どもたち。「里海サミット」では、学んだことや現状を伝えるだけでなく、未来に向けて自分たちにできることも発信しました。

6年生 音と光の祭典



校区にある史跡「宮崎兄弟の生家」について、テーマを決めて探究学習に取り組んでいます。見学や講話を聞くなどして歴史的背景を知り、地域の先人の功績を実感する子どもたち。「音と光の祭典」では、地域の方々に向けて学びを発表しました。また、当日行われるバザーの計画・準備・運営も行い、地域行事に参画しました。